

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270500279		
法人名	社会福祉法人 ウェル エヌシー		
事業所名	グループホーム たてがみの郷		
所在地	島根県大田市波根町1290番地1 (電話)0854-85-8181		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成21年1月21日

## 【情報提供票より】(H20年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19人	常勤 15 人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.9 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田市立病院 石東病院 大澤歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

老健、通所リハビリと同じ建物内にあり、独自のシステムで職員育成に力を入れている。又、「地域とともに委員会」や「満足のいく暮らしの委員会」など法人全体で取り組み、課題であったグループホームの夜間体制も改善している。日々の生活の流れや行事のあり方など、利用者主体となっているか常に見直している。カンファレンスシートを工夫し、目標達成に向けた職員の役割を明確にしている。在宅生活の再開も支援しており、利用者の思いを聴き課題を一緒に考え、共用型通所も利用して実現させた事例がある。ホーム周辺だけでなく、自宅のある町も本人にとっての地域と捉え、馴染みの店へ行ったり行事に参加している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果についてはユニリーダーを中心に改善計画シートにまとめ、重点実施事項として職員の段階に応じて目標を立て改善に取り組んでいる。特に夜間職員体制を2名にし、日中の職員体制も充実させたことで、個別ケア、昼食作り、夕食前後の入浴援助などゆとりをもって援助できるようになっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各自全員で取り組んで持ち寄り、各ユニットで話し合っている。そこで気が付いた事や改善箇所について、出来る事から取り組んでいる。前回で到達した項目でも新たな課題を見出し、更なる充実を目指している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、自治会代表、地域包括支援センター、市役所高齢者福祉課等の参加があり、2ヶ月に1回開催している。そうめん流し、新米試食会など行事に参加してもらい感想を聞いている。日々の暮らしの紹介、評価結果と改善の報告、研修会で発表した実践事例紹介など行い、参加者からは暮らしや行事、地域交流に関して具体的な助言が出され、日々の運営に取り入れ役立てている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月個別に担当からのお便りを送り近況を細やかに報告をしている。運営推進会議に出席した家族からの提案で、行事の日を利用して家族同士で話し合う機会を設け意見や希望を聞いている。施設内に意見箱を設置し、対応結果は玄関にも掲示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の「地域とともに委員会」による趣味活動教室やふれあい祭をとおり、共に楽しむ活動を行なっている。小学校、保育園との交流、近隣商店への買い物、法人の老健・通所リハビリ利用者との交流等をしている。小学校の福祉交流では高齢者について学ぶ時間も取り入れている。最近では、日曜日に地域の子供が訪ねてきたり、保育園児が散歩の途中、庭で休憩して行く等、日常のふれあいにまで広がってきている。自宅のある地域とのつながりも大切に考え、関わりを継続できるようにしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、グループホームの事業計画の中に「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」を目標として掲げている。グループホームの周辺地域との交流を深めるほか、自宅のある町の行事への参加や自宅訪問・墓参りなど、入居前の地域とのつながりも大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念に基づき、グループホームでも長期・中期・ユニットごとの短期目標、重点実施事項を決め取り組んでいる。理念が実践に結びつくように管理者・主任・ユニットリーダーは会議やミーティングにとどまらず、日々のケアの中でOJTによる実践指導をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の「地域とともに委員会」やふれあい祭をおし、共に楽しむ活動を行なっている。小学校、保育所からの来訪、近隣商店への買い物、老健・通所リハビリの利用者との交流がある。小学校福祉交流では高齢者について学ぶ時間も取り入れている。利用者の自宅のある地域との関わりも継続させている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各自で取り組み、気が付いた事や課題を各ユニットで話し合いリーダーがまとめている。前回の評価結果については、全スタッフで意見を出し合いリーダーを中心に具体的な課題を改善シートにまとめている。重点実施事項として職員の段階に応じて目標を立てて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会代表、地域包括支援センター、市役所高齢者福祉課等の参加があり、2ヶ月に1回開催している。そうめん流しや新米試食会等行事参加を含め、日々の暮らしの紹介や、外部に発表した実践報告の紹介、評価結果と改善の報告等を行い、意見や感想を聞きながら、グループホームの暮らしに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃からの各種の相談、ケースの相談等で行き来したり、共に立ち上げたグループホーム部会にも内容によっては参加してもらい、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者から、暮らしぶりのわかる写真を盛り込んで、日頃の様子や健康状態、担当職員の交代などを知らせる手書きの個別の便りを送っている。併せて金銭報告もしている。遠方の家族にとって楽しみで時々感想も寄せられる。法人の活動や地域向け情報を載せた広報紙も発行している。	○	家族向けに個別に毎月お便りを送っているが、グループホームの活動や行事案内、お知らせなど共通の情報提供欄を設けるなど、更なる充実を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、法人の苦情解決委員会で話し合い、対応結果を玄関に掲示している。運営推進会議に出席した家族の提案で、行事の日を利用して家族同士で話し合う機会を設け、意見や希望を聴き、支援に活かしている。	○	家族同士で話し合う時には、短時間でも職員が席を外し、忌憚の無い意見を出しやすいように工夫をしてみたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動はあるが最小限に留め、適任者配置を心掛けている。グループホーム配置となった職員は日勤で両ユニットの利用者の顔を覚えてから夜勤に入るようにしている。又、今年度から夜間専門職員を配置し常勤職員との2名体制としたが、夜間専門職員には日勤を1ヶ月、夜勤実習を3回行い利用者への馴染みと理解を深める工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事評価制度・職務遂行表・職能基準書に基づいて段階別に育成している。職員1人ひとりが個別の取り組み目標を設定しており、職員はリーダーから、リーダーは主任から、主任は管理者から、それぞれの場面に応じてスーパーバイズによる育成をしている。内部研修では法人の実力アップ委員会を中心に取り組んでいる。資格取得に向けた支援も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡会グループホーム部会で勉強会や情報交換の機会を年4回持っている。しまね小規模ケア連絡会に積極的に参加し、今年度は実践事例報告をするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。認知症の実践リーダー研修の実習受け入れをしている。職員同士の交流もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年新たな入居は1名であるが、グループホーム共用型通所介護の利用からであり、安心して入居が出来ている。ただその分、夕方の通所介護の帰宅時間の不安があり、しばらくは一緒に散歩したり家の近くまで車で行くなど、本人の心に寄り添い徐々に馴染めるように努めた。本人の気持ちを聞き、どうしたらよいかを一緒に考えるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来る事や得意な事を把握し、日々の場面で職員が教わるようにしている。稲や野菜作り、料理等、本人の喜びに繋がり、共に楽しみ合えるよう取り組んでいる。不安や帰宅願望など思いを聞き、どうしたらよいかを一緒に考えるようにしている。ケア方針をたて、支えあう関係の中で細やかな支援を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何を望んでいるのか、言葉ひとつにもこめられた思いや本音を知るようにしている。入居時のアセスメントや在宅時の暮らしのリズムの把握、センター方式など利用ニーズを把握するようにしている。個人記録には職員の働きかけ、利用者の様子や場面、結果・気づき・提案欄があり、整理して記録することで支援に活かしている。		
2. 本人がよりよく暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや日々のかかわりの中で把握したニーズを目標に設定し、本人、家族の希望実現のため、ケアワーカーとしてどのような援助ができるかをカンファレンスで話しあっている。カンファレンスには栄養士も参加している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標の達成状況をモニタリングし、本人や家族から希望も聞いて3ヶ月ごとにカンファレンスを開いて見直している。カンファレンスシートを工夫し、目標を達成するために必要な援助や職員の役割を明確にしている。栄養士や厨房職員もスタッフ会議に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の個別の希望に柔軟に対応している。自宅のある町の祭りや公民館行事にも出かけたり、墓参り等に付き添っている。受診は往診してもらえるようにしているが、それ以外の受診も家族の状況に応じて付き添いをしている。共用型デイサービスがあり、通所利用からの入居、在宅復帰した後の通所もある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続し、定期的な往診も受けており、いつでも相談できる体制がある。往診以外の病院受診は家族の付き添いが基本だが、状況に応じてホームで付き添いしている。受診結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっていないため、入居時に家族に説明している。常時車椅子使用、医療との関わりが多くなればホームの生活が困難になるが、すぐに退居ではなく本人、家族と相談することになっている。畳の部屋の利用者が歩行器使用となったがベッドを置き、段差、手すり、床材など様々な工夫をして馴染んだ部屋が継続して利用できるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人に「満足のいく暮らし委員会」があり、人権について研修をしている。言葉かけや接し方など常に利用者の立場に立って考えるようにしている。入浴、排泄など同性介助を基本にしている。小声で穏やかな接し方をしているが、一人ひとりに話すときは耳元で聞こえるように話しかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその気になって自分から意思表示できるような働きかけや演出、情報提供をしている。商店のちらしを見えるところに置き、食べたいもの、欲しい物等意思表示できるよう働きかけている。外出したいのか、ゆっくりホームで過ごしたいか等、その日の気分を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食をホームで作っていたが、入浴時間と重なるため、朝夕の副食を厨房で作ってもらい、昼食をホームで作るようになった。毎日食材の買い物に出かけ刺身など希望を適宜取り入れている。昼食作りをするようになり調理に参加する利用者が増え、魚の下ごしらえなど特技を発揮している。ご飯の盛り付け、食器洗いは利用者がそれぞれ自分でやっている。	○	職員は各ユニット1名が検食しているが、他の職員は弁当を同じ席で食べており、利用者が味見を勧める場面も見られた。和気藹々と一緒に調理を楽しんでいるので、汁一品でも共に味わうことができないか話し合ってみて欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に応じるようにしており、夕食前後に入る人が多い。女性入居者の意見で男性が先に入ることが多い。着替え、洗身等介助が必要な人は、どこができないかを把握し、準備や介護など行っている。	○	洗髪や着替えなど自分でできている人についても、自立を尊重しながら、さりげない見守りや手伝いなど、きめこまやかな援助を期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好きなこと、得意なこと、仕事の経験を發揮してもらおうようにしている。田んぼを作っているが、ただ行事を楽しむのではなく利用者がそれぞれ役割を持って参加できるようにと話し合った。稲刈りに参加できない人も留守番してねぎらう役や、庭でならぬの組み方を教えてもらうなど力を發揮してもらっている。玄関の花の世話、お品書き、挨拶役など役割を持つことで心身の活性につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日食材の買い物や日用品の買い物に出ている。利用者同士でホーム周りの散歩を日課にしている人もある。居室から外へ自由に出られるのでベランダで花を作っている人もある。広い庭があり洗濯物を干したり野菜を作っている。自宅のある町の運動会や祭り、散歩など家族や職員と出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室からも自由に出られるが、施錠はしていない。「満足のいく暮らし委員会」で拘束しないケアを勉強している。帰宅願望や不安から外へ出られそうな人は会話や表情などでサインをキャッチし、寝るまでの時間にゆっくり話をしたり、夜間の見回りをこまめにしている。地域の人たちの見守りもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の老健、通所リハビリと同じ建物にあり、避難訓練、災害マニュアル等は法人として行っている。利用者は2階の通所リハビリへも自由に入出りできるのでタバコの吸殻の始末など協力しあっている。災害備蓄は法人で準備している。災害時の地域との協力体制についてはまだ具体的に取組んでいない。	○	災害時の地域との協力体制については、グループホーム単独ではなく法人の課題として取り組んでほしい。地域からどのような協力をしてほしいか、地域へどのような協力ができるのか等、相互協力体制ができるよう少しづつすすめてみてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕の副食は厨房で作っており、献立表にカロリーが記載されている。昼食は各ユニットで献立を立てているが時々栄養士と一緒に調理をし、把握している。水分は1日1300ccを目安にし、昆布茶やコーヒーなど好みのもを用意し、摂取量を記録し、脱水で体調不良にならないよう気をつけている。カロリーや塩分の厳しい制限のある人は3食厨房から食事提供してもらっている。補助食やトロミ剤など厨房の協力を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングが広いので家具の配置などで仕切るなど工夫している。食事の席は利用者が落ち着いて食べられるようにグループ分けしたり、少人数のコーナーを作ったりしている。玄関脇の客間を老健と共有の趣味活動の部屋にしている。こじんまりと落ち着いた空間で、利用者にとってはいつもとちがう雰囲気であり、習字や俳句など活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらってベッド、タンス、鏡台などの家具や趣味の道具など自宅から持って来てもらっている。たてがみユニットは洋室、かけとユニットは和室になっている。和室は入口に段差があるため利用者の状況に合わせて手すりをつけたりベッドを置いている。部屋から外に出れるので花作りや鉢植え置いて楽しんでいる人もある。		